

# 原水爆禁止2011年世界大会

## 報 告 書

原水爆禁止2011年世界大会には国内外から7800人が参加しました。総会のオープニングでは、青森県から始められた東日本大震災被災地行進のスライドが上映されました。青年・学生の参加が半数を超え、「核兵器全面禁止のアピール」国際署名の運動で巨大な波をつくりだすこと、「原発からの撤退」を求める運動との連帯をよびかける決議「長崎からのよびかけ」を採択しました。

三八地区からは長根光司さん(医療生協)と寺下之雄さん(県教組)が参加しました。今年の大会は、核兵器禁止条約の交渉開始を求めるグローバルな行動や原発からの撤退と自然エネルギーへの転換を求める国民的運動との連帯など、核兵器のない平和で公正な世界へ新たな前進を築いた世界大会となりました。そのため取り組みをこの地域でも強めたいと思います。

6月の国民平和大行進と8月の原水爆禁止2011年世界大会に際して、多くの皆様から賛助とご支援をいただいたことにあらためて感謝を申し上げます。報告書は、世界大会参加者の報告と平和行進、サダコと折り鶴ポスター展の記録をまとめたものです。どうぞご一読下さい。引き続きご支援お願いします。

2010年12月

八戸原水爆禁止の会 会長 内田弘志



### 再生への希望 若葉マークのこと

若葉マークですが、日本原水協が2005年に発行した『ドキュメント核兵器のない世界へ・被爆60年と原水爆禁止運動・1945 - 2005年』では「世界大会成功のために作られた若葉バッジ。日本原水協のシンボルとなった」と書かれています。原水協結成当時のことを知る赤松宏一氏(日本原水協代表理事、同元事務局長)に聞いたところ、当時、「広島、長崎への原爆投下により、再び樹木など生き返らぬと思われていたが、翌年春に樹木から若葉が生えそろってきた。これは、人間も都市も再生することができるという希望を広島、長崎の人々に与えた」ということが共通して言われていたそうです。これを著名な彫刻家である本郷新さんにデザインを依頼し、第1回世界大会のバッジにしたそうです。それが原水協のマークとなったようです。(日本原水協・梶原)

## 原水爆禁止2011年世界大会in長崎【報告】

県教組三八支部・寺下之雄

今夏、原水爆禁止2011年世界大会・長崎に参加させていただきました。県教組三八支部からは、代表として私、寺下が参加させていただきました。原水爆世界大会には、かつて若き頃（青年部）に広島大会に参加した経験があります。広島を中心部にある原爆ドームを初めて目にしたときは、原爆の恐ろしさとむごたらしさに怒りを覚えました。平穩に過ごしていた家族の喜びと幸せ、そしてかけがえのない命そのものを、一瞬に奪ってしまったたった一発の原子爆弾。原子爆弾さえ落とされなければ、いつものように燦々と照りつける太陽のもとで子どもたちは楽しく公園ではしゃぎまわり、そして大人たちは街や仕事場で楽しい会話をしていたことでしょう。その原爆投下から、66年の月日がすでに経過しました。同じことが二度とこの地球上で繰り返されないためにも、被爆国日本で、広島と長崎が毎年原水爆禁止世界大会を開催し、平和構築に向けて重要な役割を担い果たしてきました。今回、そうした私自身の内にある思いを抱いて、広島に続き長崎大会に参加できることは、とても意義あるものと同時に、これからの平和運動に微力ながらも参加できるのではないかと思います。参加の決意に至りました。

さて、今回の長崎大会の様子については、最初に日程について紹介し、その後に特に印象に残ったことを取り上げて記述し、報告にかえたいと思います。

日程 8月6日（土） 12:15 青森空港発 19:00 長崎で夕食交流  
7日（日） ①戦跡めぐり、長崎原爆資料館見学 ②世界大会開会総会  
8日（月） ③分科会「放射能汚染・被災地住民はどうたまたかかったか」に参加  
夕方教職員平和のつどいに参加  
9日（火） ④世界大会閉会総会（長崎公会堂） 16:00 福岡航空発夜帰着

### 参加者

青森 谷崎・山脇・玉熊。駒沢、菊池、小田・金成  
八戸 寺下・長根  
弘前 森山・石沢・萩原・伊藤  
むつ 石倉

### 印象に残ったこと（番号は上記の事柄）

#### ①『平和はあたえられるものではなく築いていくもの』

『子どもたちに希望をもたせることが大切』

この言葉は、戦跡案内人・田中安次郎さんの言葉で、私にとってはとても勇気づけられるものとなりました。また、お別れの際に大切にしてほしい言葉として三つ残してくださいました。それは、『花』『笑顔』『歌』でした。いまでも時々思い出しては、その願いに応えられるように頑張っています。

②核兵器廃絶を求め各国の政府代表など 7800 人が参加。長崎市民体育館は、人、人でびっしりと埋め尽くされ、2階席の手すりには各県から持ち込まれた千羽鶴がびっしり。開会に先立ち、田上富久市長は「原発事故により放射能の理解が進んだ今こそ、核兵器の危険性もしっかり伝えなければならない」と挨拶。続いて野口邦和代表が、原発依存からの脱却と自然エネルギーへの転換を求める国際会議宣言が広島で、採択されたことを報告。日本共産党志位和夫委員長は、「核による被害を出してはならないという点で共鳴する原発ゼロを目指す運動との連帯が大事」と述べ「核兵器禁止条約の交渉を早期開始させるために力を合わせよう」と呼びかけた。

### ③分科会参加者約200名

- ・福島第1原発から20km圏内で農業を営んでいた南相馬市の亀田俊英（福島農民連会長）氏は、農作物に放射性物質が検出されるなど事態は深刻になっていると報告。
- ・ロシアのミーリャ・カビロワ議長は、近隣のプルトニウム工場が爆発事故を起こし、住民48万人が被爆。このうち46万人が避難を余儀なくされた。父と兄2人も癌でなくなる。「被爆者がまず政府に求めることは、正確な情報と除染の実施です」と訴える。
- ・マーシャル諸島のアバッカ・マデイソン前上院議員は、米国が1946年から58年まで67回の核実験を行ったため、多くの住民が健康被害を受けたと報告し、「米国に対する補償を勝ち取った。要求額から比べると少ないが、被爆者が権利と正義を勝ち取ることも必要」と訴えた。
- ・日本の弁護士「福島住民については、以後の被爆訴訟に備えて、健康被害や内部被爆の状況を記録にして日々残す活動が大切である」と報告。

### ④主なプログラム

- ・被爆者・被害者とともに「震災・原発被害者からの訴え
- ・海外代表の発言
- ・核兵器のない世界を「折り鶴に願いをこめて」  
クミコさんオンステージ21万羽折り鶴プロジェクト
- ・核兵器をなくし、平和で公正な世界を被爆国からの決意
- ・文書の提案採択
- ・フィナーレ

### まとめ

今年で、原子爆弾が広島と長崎に投下されて66年目をむかえる。今もなお放射線による障害や疾患に苦しんでいる人々がいる。また、東京電力福島第1原発の事故は、未だ収束が見えず周辺住民は避難生活が余儀なくされ、牛肉をはじめ農産物への放射能の汚染の拡大がとどまるところを知らない。制御することのできない原発事故は、たとえ平和利用であったとしても、核と人類は共生できないことを知らしめた。「ノーモアヒロシマ・ナガサキ・フクシマは、一人一人の力に」。今回また決意を新たにすることができた。



## 原水爆禁止2011世界大会長崎に参加して

八戸医療生協 長根光司

今年は3月11日の東日本大震災があり、地震、津波と自然の脅威をまざまざと見せつけられた年となりました。8月現在、被災者は未だ困難な生活が続いています。さらに人災とも言える福島原発事故では、未だに収束が見えず、近隣住民は郷里を失った絶望感で一杯でしょう。周辺自治体も放射能の影響に戦々恐々としており、確実に平和が脅かされています。

そんな中、原水爆禁止世界大会への参加が決定しました。原爆の恐ろしさは、亡き父が幼い自

分に紹介してくれた、中沢啓二氏の「はだしのゲン」を通じて、認識していました。父は幼き自分に、ゲンを通じて平和の尊さを訴えたかったのでしょうか。そして現在、絶対安全とされていたはずの原子力発電があのような状況になり、日常生活、未来を脅かしています。今回、直接原水爆禁止世界大会に参加する機会を得たことは、父が原発にも反対して来いと言っているような、運命のようなものを感じました。

参加にあたり、漫然とした参加にならないよう、目標を掲げることにしました。①原爆の恐ろしさを再認識する。②核兵器・原発反対の取り組みを知る。③全国の同志と意見交換を多くする。以上3つを意識して行動しようと思いました。

当日、青森空港に着くと青森県代表団は14名、医師や市議会議員、昼職人など、多彩な職業の方がおり、その方々との交流も深く図れました。やはり、民医連に限らず、核兵器、戦争を望む者は皆無でしょう。夜の交流会でその認識が共有され、平和に向けた今回の取り組みを充実したものにしていこうという気概が皆から伝わってきました。

2日目は被爆遺構めぐりでした。ガイドは自身も被爆したという田中氏でした。原爆投下中心碑、平和記念公園、山里小学校、一家全滅の墓、原爆資料館など巡りました。行く先々、見るに絶えない原爆の脅威を目の当たりにしました。田中氏の被爆体験者「ならでは」のガイドコース、お話も加わり、生々しい情景まで想像することが出来ました。長崎での原爆被爆者の語り部達は高齢化に伴い、年々少なくなります。田中氏もそれを憂っていました。直接、被爆体験者ならではの話の伺うことが出来たことは、次世代に核の恐ろしさを伝える上で役立たせようと思います。

午後からは世界大会開会式に参加しました。八戸から参加した寺下さんは、参加人数約7800人ということに感動されていました。若いころに広島に参加した時はこんなに大人数になるとは思いもしなかったとのことでした。小さく地道な活動が、確実に大きな輪になっていると感じました。今回は国連と6カ国政府・国際機関の代表11人が参加していました。その他にも日本政党からは唯一、共産党の志位委員長も登壇され、反核、反原発の想いを訴えていました。

3日目は動く分科会、佐世保基地見学に参加しました。佐世保港は天然の要塞というべき地形であり、旧海軍が軍港として発展させてきた歴史がありますが、終戦後、米軍がそれに目をつけ、占領し、今に至るという経緯があります。米軍の強襲揚陸部隊（別名殴り込み部隊）があり、さらに燃料、弾薬の貯蔵庫としての役割を担っているそうです。米海軍第7艦隊を3ヶ月間行動させる程の燃料を貯蔵しているという事で、米軍の主要な補給基地であることが伺えます。我が青森県の米軍三沢基地だけではなく、ここでも米軍と地元住民のトラブルは後を絶たないとの事でした。LCACの騒音、塩害問題、米兵銃弾不法投棄事件、佐世保ドライドックと米軍の屈辱的な取り決め、さらに原潜ヒューストンによる放射能漏れ事故など、枚挙にいとまがありません。さらに、この佐世保周辺の米軍施設に関する建設費等の総費用は、思いやり予算から捻出されているとのことでした。光熱費等の7割までも税金で賄っているそうです。その額、累計1564億円ということですので、地域住民、国民を無視した日本政府の米軍言いなり路線には呆れてしまいます。このような思いやり予算の図式は当然、三沢、横須賀、沖縄など、他の米軍基地がある施設にも当てはまるのでしょうか。戦後66年—なぜこのような米軍言いなりの状況になってしまったのでしょうか。深くは分かりませんが、米軍施設を建設することで経済的に潤った人間もいるのでしょうか。戦争というものの実態を絵空事のように感じ、利益に走る輩がいる限り、世界平和は遠いでしょう。一人一人が目先の利に捉われず、自分のことのように戦争の悲惨さを実感することが大切さだと感じました。

最終日、世界大会閉会式に参加しました。被災地青森代表ということで谷崎団長の号令の下、「大間原発はおおまちがい。」と訴えてきました。谷崎団長は工業高校の教師らしく、建築・工業的側面から原発施設の安全性に対して批判の声を上げていました。原発の中をつなぐ多くのパイプ全部の長さが、とにかくものすごく長い距離で、今回のような巨大地震があった際、点検するのすら容易ではないこと、さらに壊れないほうが難しいということをお話されており、原発安全神話は根拠のないもの、ねつ造されたものとの見解を示していました。続いて各団体の登壇、平和に向けた活動の報告が次々となされ、大盛況の中で大会が終了しました。同日、長崎市長が平和記念行事にて脱原発発言をしました。国策であるとして広島市長もためらい、しなかった発言を、です。それは、「ノーモアヒバクシャ」を掲げているのになぜ？という、平和団体からの後押しがあればこそだと後日、新聞記事で読みました。署名、平和行進など些細な活動でも、平和に繋がる可能性がある。その可能性を信じて、これからやってみようかと、今回の大会と長崎市長の発言により感じられるようになりました。



閉会后、平和記念公園での記念行事が気になり、解散後に一人、会場に向かいました。満員で平和記念公園に入場できませんでしたが、再び原爆落下中心碑に向かい、合掌し、この地に眠る行方不明犠牲者の弔いと、平和を祈願し、今回の旅は終了しました。

4日間を通じて、当初立てた目的はおおよそクリアすることが出来ました。原爆の悲惨さの再認識は十二

分に確認できました。核兵器廃絶に向けた取り組みについては、小さな活動の積み重ねと継続が必要であるという事を気付かされました。全国の同志との交流も、交流会を通じて全国の仲間と深めることができました。

青森県も、米軍基地や原発・原燃を抱え、平和を脅かす要素が山盛りであるということを知ってはいましたが、今回大会に参加することで「認知」することができました。特に原発に関しては、「原発がなければ繁栄はない。」「原発は安全である。」という脅迫めいた根拠の無い言葉に騙され、実害がない浅い歴史になんとか見過ごしてきた自分がいました。多くの人も東日本大震災前まではそうだったと思います。当然のごとく享受している平和は、実は非常に危ういものであるということに気付くことが出来ました。恒久平和を望むならば、目先の利に捉われず、長い目で物事を判断することが必要です。自分たちの平和は自分たちで守るという気概と、偏らない情報収集の努力を継続していかなければなりません。

最後に、生前父がゲンを通じて託した戦争の悲惨さと、今まさに脅威となっている原発事故を、次の世代へと伝達していきたいと思います。そして今はまだ多くの課題がありますが、平和で核のない世界が広がるよう、微力ながら協力していきたいです。

## 平和行進一日目(136人)

9日は三八教育会館から、上十三地区との合同行進で、116人(さくら野前カウント)、引継集会 136人の参加者でした。

上十三行進団の舛甚英文さん(十和田市議)は、「福島原発事故後の今年には自治体の対応が違う。横浜町と六ヶ所村から、訪問おきず文書で依頼した核兵器全面禁止のアピール署名への賛同が寄せられた」と報告しました。



全国通し行進者の竹田昭彦さんは、戦争で父親をなくしたことを語りつつ、「日本海コースの予定を変更し、被災地行進となった太平洋コースを歩くことにした。最初の仕事が八戸港での埋め立てだったこともあり、感慨深い」と挨拶しました。

八戸市長(新婦人・三上さん読み上げ)、市議会議長(田端市議読み上げ)のメッセージが読み上げられました。小林市長からは、「当市は、昨年11月に平和市長会議の加盟都市として認定を受け…核兵器廃絶に向けて取り組んでおります」との言葉が寄せられました。秋山議長からは、平和行進への敬意と平和都市宣言自治体として、市民が安心して暮らせる社会と世界恒久平和の実現に向けて鋭意努力していく旨の言葉が寄せられました。

最後にうみねこ合唱団のリードで「原爆を許すまじ」をうたい、終了となりました。全国通し行進者・竹田昭彦さんのブログ↓に行進・集会の様子と写真が掲載されています。  
<http://www8.plala.or.jp/TAKEDA/11-6-09.html> の後段

## 平和行進2日目(33人)

市民広場から司法センターまで行進—工事中の所は歩道(許可条件)。南部町は議会開会中のように懇談できなかつた。賛助とペナントの協力あり。前から南部町の行進が短いとの意見があったので、あらたにポートピアなんぶから三戸駅(南部町)までを行進、それほど暑くもなく平和行進日和。少し長かった。三戸駅前には倒れそうな建物が2軒あり、すたれた感じだった。

三戸町は黄金橋から行進。予定より早かったのも、また、大向町議を置き去りにしてしまった。スピーカーの音を聞いて追いかけたという。申し訳なかつた。三戸町で副町長と懇談。和やかに、平和行進のこと、町のことなどを話し合った。議員さんの署名があるということを知り、議会事務局へ行き、町議11人の署名を受け取った。大向さんからいただいたので、15人中12人、八割の議員の賛同が得られた。やはり、地域レベルの変化が生じているのだと思う。

田子町の行進は、今年は産廃を運ぶ大型ダンプが走っていなかつた。震災の影響で運び出しを休止しているらしい。懇談はできず、賛助とペナント。行進団は田子町で解散、宣伝カーは階上町へと走った。役場で賛助とペナント協力、町長、議長の署名をいただいた。せっかくの階上町訪問なので、役場から道の駅まで流し宣伝をした。

## 平和行進は岩手に引き継ぎ(33人)

6月11日、三八教育会館を17人で出発。

五戸では赤坂町議と合流・行進しました。五戸町は行進をのぞく人や手を振る人もありました。

新郷では診療所で山岸村議と合流、役場まで歩きました。

三戸で、生協労連 3 人、全司法青森 4 人、立花南部町議ご夫婦、生健会 1 が合流しました。行進は、日ざしが強くて大変でした。

金田一温泉駅前には、青森県の行進団であることを強調したかったので、テープはやめてマイクを握りました。駅前には予想より多い出迎えの人たちが並んでいました。

引継集会では、日本原水協から 8 人、横須賀からの参加者もありました。びっくりです。原水協メンバーの中に大越文（おおこし・あや）さん—ブログ「ぶんちゃんの平和行進につき」で有名な人ですが、八戸市の出身とのこと。新婦人八戸のみなさんに紹介したら、ひとしきり盛り上がっていました。そんなこんなで通し行進者の竹田さんとはお別れのあいさつを交わさずじまいでした。引継集会ではさらに 4 人合流しました。



## サダコと折り鶴ポスター展

8月9日から11日まで、まちの駅はちのへでサダコと折り鶴ポスター展を開催しました。

ポスターは広島平和記念資料館から借りたもので 26 枚セットでしたが、市民ギャラリーのスペースが昨年の半分だったので、21 枚の展示が限度でした。ポスターは原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの生涯を伝え、核兵器廃絶を訴える内容となっています。また、原爆の子の像の建設に取り組んだ子どもたちを描いた本や絵本、原水爆禁止世界大会資料等が展示されていて、まちの駅を訪れる人はとても真剣に見ていました。

今年はまちの駅の場所が変わり、狭くなったので来場者が減ったようです。

絵本を読んでいた 80 歳の女性が、私らは学校で勉強できなかったから難しいものは読めないがこれなら良く分かって読む、共感の拍手をしていたことが印象に残りました。

